

○顕花植物科名の「標準和名表」に追加する場合の資料 (伊藤 洋) Hiroshi ITO: On Japanese equivalents for the names of some families of flowering plants

植物の学名は国際植物命名規約によって厳格に規制されているが、和名には全くそのようなものがなく非常に自由であることをご存じのとおりである。ところが一つだけ例外があり、科の名称には標準和名なるものが制定されていて「それを使いましょう」という申し合わせができています。これは植物分類学会(当時の名称、現在は頭に日本が付いている)が1948年4月から検討を始め、全会員の努力の結果1951年9月に正式案として承認されたもので、翌年の植物学雑誌に顕花植物の部が発表された(隠花植物は1956年)。これらは合わせて文部省編:学術用語集植物学編(1956)にも載っている。30年経った今日では教科書はもちろん多くの書物などで広く使われるようになり、「気に入らないから変えよう」などという声はほとんど聞かれなくなっている。

30年の間には新しく話題に上った熱帯植物とか、亜科だったものが科に昇格したものとか、和名の必要な科がぼつぼつ出てくる。このような場合には各著者が適当に命名して使うわけで、一いち分類学会がチェックしたり登録したりはしない。そこで私は標準和名表以後に出された新しい科名を少し捨ててみたのでここに報告する。文献を年代順に挙げ、先の文献に出た新和名が同じ名で後の文献に出た場合は最初のものだけを記録する(これは先取権などという大げさなものでなく単に紙面節約のため)。将来追加表を作る時の資料の足しにでもなればと思うしだいである。

1) 伊藤 洋:高等植物分類表(1952)

Eucommiaceae	トチュウ科	Moringaceae	ワサビノキ科
--------------	-------	-------------	--------

2) 大井次三郎:日本植物誌(1956)

Zosteraceae	アマモ科
-------------	------

3) 伊藤 洋:新高等植物分類表(1968)

Agavaceae	リュウゼツラン科	Loganiaceae	マチン科
Aizoaceae	ツルナ科	Menyanthaceae	ミツガシワ科
Buddlejaceae	フジウツギ科	Molluginaceae	ザクロソウ科
Daphniphyllaceae	ユズリハ科	Paeoniaceae	ボタン科
Illiciaceae	シキミ科	Schisandraceae	マツブサ科

以上のうち Loganiaceae は標準和名表ではフジウツギ科となっているが、Buddlejaceae を分離したのでマチン科とした。ザクロソウ科とツルナ科の関係も同様である。

4) コーナー・渡辺清彦:図説熱帯植物集成(1969)

Ancistrocladaceae	ツクバネカツラ科	Connaraceae	マメモドキ科
Cardiopteridaceae	ヤマイモモドキ科	Dilleniaceae	ビワモドキ科
Caryocaraceae	バタナツ科	Hypoxidaceae	キンバイザサ科
Cochlospermaceae	ワタモドキ科	Leeaceae	ウドノキ科

Nyssaceae	ジャワミズキ科	Scyphostegiaceae	カニンギョウ科
Opiliaceae	カナビキボク科	Sphenocleaceae	ナガボノウルシ科
Pentaphragmataceae	ユガミウチワ科		

このほかに Monimiaceae モニア科などのように学名をそのまま使ったものが 7 科あるが、これは今回は問題にしないこととする。

5) 田村道夫: 植物系統分類学の基礎—双子葉植物綱 (1974)

本書にはたくさんの科が挙げられていてそれら全部に和名が与えられているので、新和名は 100 以上に上っている。しかし、そのほとんどが外国産で学名そのままの読みから和名が作られているので問題外とすれば、和名として新しいのは次の 5 科である。

Cistaceae	ハンニチバナ科	Tetracentraceae	スイセイジュ科
Glauclidiaceae	シラネアオイ科	Winteraceae	シキミモドキ科
Nyssaceae	ヌマミズキ科		

なお Loranthaceae がマツグミ科に変わり Viscaceae が新たにヤドリギ科になっているのは、前記フジツギ科の場合と同じ理由によるものである。それから標準和名表に和名のある科へ学名のままの名をつけたものが 2 科 (Caricaceae, Resedaceae) と、意見が違うとみられる次の 5 科がある。

Balsaminaceae	ホウセンカ科	Loganiaceae	ホウライカズラ科
Bombacaceae	キワタ科	Rafflesiaceae	ヤッコソウ科
Erythroxylaceae	ココ科		

6) 堀田 満: 植物系統分類学の基礎——単子葉植物綱 (1974)

新科名 15 のうち日本名は 2 科ある。

Petrosaviaceae	サクライソウ科	Smilacaceae	サルトリイバラ科
----------------	---------	-------------	----------

また Xyridaceae は標準和名表にあるが、ここでは学名読みになっている。

7) 山崎 敬: 現代生物学大系 7C——双子葉植物綱 (1982)

Globulariaceae	ウルップソウ科	Trapellaceae	ヒンモドキ科
Thunbergiaceae	ヤハズカズラ科		

また Sonneratiaceae は標準和名表と違ったマヤブシ科を使っている。

8) 佐竹義輔: 現代生物学大系 7C——単子葉植物綱 (1982)

Apostasiaceae	ヤクシマラン科	Zannichelliaceae	イトクズモ科
---------------	---------	------------------	--------

9) 熱帯植物研究会: 熱帯植物要覧 (1984)

Didiereaceae	カナボウノキ科	Hippocrateaceae	デチンムル科
--------------	---------	-----------------	--------

[付記] 標準和名表には科が分割された場合の科名が若干用意されている (\* じるしの付いたもの) が、その数はごく少ない。将来亜科を科に上げるような場合には、この表に載っていない科も調べる必要がある。それには 1950 年植物分類学会 (津山尚編): 植物科名整理資料顕花植物の部が最も役に立つ。 (東京都文京区)